



“Program Update”

疲労強度試験機の最終組立を開始

MRJの疲労強度試験機の後部胴体後部が6/30に最終組立ラインに搬入され、飛行試験機5機を含め7機を製作する試験機の最後の機体が最終組立工程に入りました。

機体構造強度を検証する強度試験機には静強度試験機と疲労強度試験機の2機があります。昨年より実施している静強度試験においては機体運用中に予想される最大の力を静的に負荷し強度の確認、保証を行っています。

これに対し疲労強度試験においては機体運用中に予想される繰り返しかかる力を負荷し耐久性の確認、保証を行います。MRJの疲労強度試験は8万回の飛行回数を想定し実施します。一日8回の飛行を想定した場合、1万日、実に27年以上の運用年数に相当することとなります。

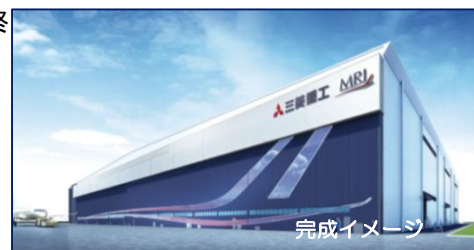


量産工場(小牧南新工場)の建設状況



本年1月に着工したMRJ量産工場(小牧南新工場)は現在、鉄骨の組み上げが急ピッチに進んでおり、毎日クレーンが資材を吊り上げ、みるみる姿を変化させています。建設中のこの工場では各種装備品の取り付け、最終組立を実施します。

お客様向けの機体は全てこの新しい工場生産され、納入されます。



完成イメージ



“Hot Topic”

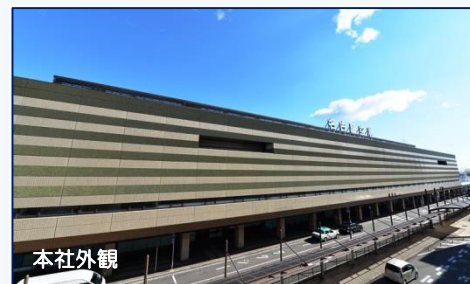
三菱航空機 本社オフィス紹介

今回は私たちが働いている三菱航空機の本社オフィスについて紹介します。

三菱航空機は今年1月に今後の飛行試験や量産体制を見据え、空港及び最終組立工場に隣接した県営名古屋空港ターミナルビル内に本社オフィスを移転しました。現在、同ターミナルビルの2階1フロアに社員約1,500名が集結し、闊達なコミュニケーションのもと開発に従事しています。

オフィスとして活用している2階は以前、空港出発ロビーとして使用されていた場所でレトロな反転フラップ式の出発掲示板がそのまま残っているなど随所にその名残を感じることができます。また県営名古屋空港からは福岡など国内各都市に就航しており滑走路側の壁一面の窓からはその離発着の様子を目にすることができます。

そして今秋にはこの窓からMRJが飛び立つ姿を臨むこととなります。現在、その日を胸に全社一丸となって開発に取り組んでいます。



本社外観



オフィス内